

2018年7月号

衣類のお手入れ通信

夏祭りの季節です。日本三大祭りといえば、京都「祇園祭」と大阪「天神祭」は誰もが認めるところですが、三つめは意見がわかれます。一般的には東京「神田祭」を支持する人が多いようですが、東北の人にとっては「ねぶた祭」、九州に行けば「博多どんたく」や「長崎くんち」があがります。どれも「日本の夏」ですね。

【藍染製品の特性と取り扱い方法】

「夏を代表する製品として、藍染がありますね。近年では藍染のTシャツや、鞆、帽子といった日用アイテムも見かけます。ですが、やはり古（いにしえ）の頃から活躍してきた暖簾（のれん）や法被（はっぴ）、作務衣（さむえ）などが今もよく使われていますね。特に暖簾は古都の老舗店舗のみならず、町屋の表玄関にも掛けられているところをよく見かけます。実はこれ、見栄えだけを重視していたわけではありません。藍には虫除けやマムシ除けの効果、藍染を施した衣服や肌着には消臭効果や汗疹の防止効果、水虫防止の効果などがあります。中国や日本の薬学書にも、古来より薬草として重宝されていたことが記されています。藍は、このように人間の生活を守ってくれることから、古くから儀礼や儀式にも用いられ、魔除けの効果があるとも言い伝えられています。

では、藍の製品を洗う場合はどのように扱うとよいか伝授いたしましょう。先ず法被の場合です。製造されて2年以内は絶対に洗ってはいけません。染がまだ定着していないので染料が流れ出てしまい、色合いが薄くなってしまいます。そして一番大事なことは、洗濯機や洗剤の使用はご法度ということです。洗う場合は鹽（たらい）に真水を入れて、手で軽く押し洗いする程度にしてください。洗剤を入れて洗うと藍の成分と洗剤の成分が化学反応し、脱色だけでなく破れてしまうことがあるのです。洗濯機の使用も同様に、摩擦作用で部分破損や色泣きを増長させる恐れがあります。

次にのれんの場合ですが、暖簾は手洗いすらお勧めしません。暖簾は雨や日光にさらされ続けているので、それだけでも生地が劣化していきます。水に浸け込んで脱水するだけでも破損する可能性が高いのです。「洗えないものを何で作るの？」と疑問に思われるかもしれませんが、実は法被や暖簾は衣料品ではなく、**雑貨品として定められているのです**。法被や暖簾は、年月が経って色あせてきたほうがかえって

箔が付いて粹に見られるかもしれませんね。この夏、ご家庭でも古の文化を堪能されてはいかがでしょうか。

定休日：日曜日・祝日 営業時間：7時30分～19時

〒496-0901 愛知県愛西市佐屋町新田1-6 TEL・fax0567-26-9880 <http://105-929.com>

発行者：東郷俊博

愛知県愛西市、弥富市、蟹江町、飛島村、津島市、集配致します。